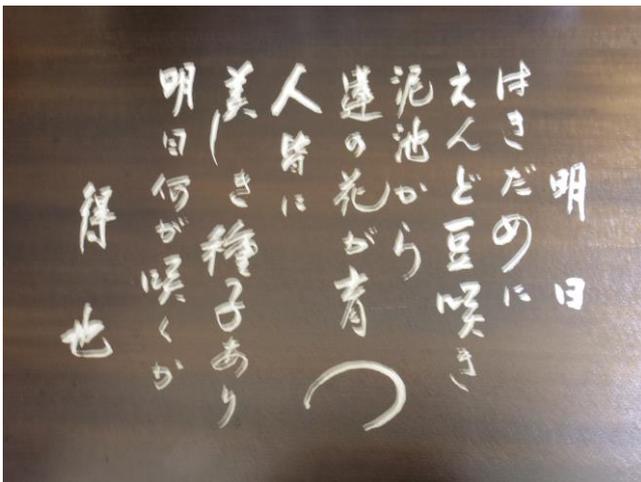


鷺宮卓話

あす何が咲くか

太田敬雄

「あす何が咲くか」は1968年に新潟に新設された敬和学園高等学校の校長に赴任した私の父が1977年に著した教育随想集のタイトルです。それは安積得也氏の詩「明日」から取られています。



(安積得也氏の自筆の詩)

この詩は設立当初の敬和学園の教育を象徴するものとなり、私自身の教育観の基本ともなった詩です。

私の教員生活はアメリカの大都市、スラム街の高校で始まりました。留学生ビザでの就職で半年から長くて1年に限定されていました。私は半年の在職で帰国旅費もたまりましたので帰国しましたが、その間に実に多くの貴重なことを学びました。

そこで身につけた事の一つは、生徒達のウソ、ごまかし、問題を見抜く力でした。その後生活指導の役割を与えられた事もあり、ウソ、誤魔化しや不良行為を見抜く力はかなり鍛えられたと思います。

教師になって数年後には、私は「誰よりもカンニングを見つけるのが上手い」ことを密かに自慢にしていました。不正を見抜き、それを許さない姿勢は大事です。けれども、その頃の私は、恥ずかしながら、言ってみれば泥沼の中から上に向かって懸命に伸びようとしている蓮の育つのを見るのではなく、その芽に張り付いている泥をひたすら見ているような状況にあったと言えるでしょう。

そのような私に教師として最も大切なこと：生徒の明日を信じ、「明日何が咲くか」とワクワクしながら見守る姿勢を教えてくれたのが安積得也氏の「明日」でした。

学校の教師という立場を離れ、国際比較文化研究所を立ち上げ、さらに研究所の学生会員による「Student Exchange Team (SET)」を作ってそのメンバーに多文化交流活動の中心を担って貰うようになって、私は学力とか成績とかに縛られることなく人の成長を見られるようになりました。

「学校」を離れて私は今、純粹に「明日何が咲くか」を心から楽しみに、祈るような気持ちで、日々育っていく若者を、いや、若者に限らず全ての人を見守る事が少しは出来るようになってきた気がします。

人は歳に関係なく泥池に根を張り明日咲こうとして、空気を目指して花芽を伸ばしている蓮なのでしょう。私自身もまた、その育ちゆく人間の一人だと思ふと楽しくなります。

～ I I M S 2 0 2 0 ～

安中市市民活動表彰を受賞しました！

文責：太田琢雄

2月11日（火・祝）松井田文化会館にて、記念すべき第1回「安中市市民活動表彰」を拝受致しました。この表彰は ①活動歴10年以上 ②その活動が住みよい地域づくり・公共の福祉の増進等に寄与したと認められる ③今後も継続した活動が期待できる団体・個人に授与されるもので、IIMS は安中市民からの推薦を頂いての受賞でした。20年に渡る地道な活動、ましてや「地域の壁なんて越えてしまおう！」という私たちの活動が、地元「地域」から認めていただけたわけです。嬉しかったです。



茂木安中市長と IIMS 理事たち

変わること・変わらないこと

表彰の選考基準のひとつだった「今後も継続した活動を期待」に対して思うこともありました。研究所の教育活動の主幹である「多文化交流事業」と「まなぼる事業」はこれからも地道に大事に継続していきたいです。また、現在研究所は、それらの活動を主軸としインドネシア支部や現地機関との連携・交流の新計画、他業種との協働による教育活動の新計画に向けて動き出しています。勇往邁進の時です。



太田琢雄 OTA, TAKUO （1976年8月22日生）
NPO 法人国際比較文化研究所理事長
Manapal 代表
群馬 NPO 協議会会長
安中ハロウィン大作戦&廃校ホラーフェス発起人
the 安中会会長

◇信条◇

異文化理解の第一歩は隣の席の子を知ること。
多文化交流の第一歩は隣の席の子と友だちになること。

これらの動きも「変化」ではなく20年の活動の「継続」なのだということを、この受賞を機にあらためて意識し、気持ちが引き締まりました。前に進もうとする時こそ初心に戻らなくてははいけませんね。

年号は令和に変わり、私などが I I M S の理事長になり、気付けば遠い未来だと思っていた2020年。「変化」は予期せぬスピードで起こり不安にもなるけれど、変わらないこともあります。たとえば、争いよりも平和を望む人がきっと多いこと。たとえば「愛」は難しいけど、意外と多くのことを解決してくれること。大事なものはたいがい目に見えないこと。研究所の活動は文化や時代を越えても変わらないそういう節理に基づいているのだと私は思っています。

2020年度国際比較文化研究所総会のご案内

理事長 太田琢雄

2020年度の理事会および総会を5月23日（土）に開催します。会員の方のご意見を拝聴し、これからのIIMSの活動の方向付けをして参りたいと思います。

記

日時： 5月23日（土）午後2:00より3:00 会員の皆様のご参加をお願いします。

会場： まなばるXD 安中市安中2456-2

会場は国道18号沿い・ヤマダ電機様向かいです。

.....

なお、同日午前10:00よりまなばるXDにて理事会を開催します。

理事の皆様のご出席をお願いします。

新型コロナウイルスに振り回されて

太田 敬雄

日毎に状況が変化する中で、新型コロナウイルス（COVID19）の影響を論じるのは難しい。特にメディアが一斉に騒ぎ立てている中で冷静に状況判断をすることは極めて難しい。これを記している今現在、日本人の感染者は1,000人を超えようとしていると言われている。実は、実態はその10倍以上で1万人は感染しているのではないかとの話もある。統計的に考えると、1万人の10倍の10万人が感染していたとしても、人口の0.1パーセントにも満たないのだ。

毎年流行する季節性インフルエンザには大体1000万人の人が感染していて、毎年3000万人の人が亡くなっていると言われている。今、私たちがCOVID-19で怯えている数と比べ物にならないほど多いのだ。とは言え、正体の判らない新しいウイルスに対しては、私たちはやはり不気味さを感じ、怯えてしまうものだ。その怯えに世界中が支配されているのがパンデミックなのだろう。

一方ではかなり客観的に状況を見ることも大切だが、同時に世界中の人々を動かしている力も決して無視してはいけないと思う。私自身そのような思いで、どうしても出席したいと思っていた東京での集まりを欠席させてもらう事にしたし、2月19日に日本を出発する予定だった「**多文化交流 in Malang, 2020**」を出発5日前の14日に中止する決定をしている。「**多文化交流 in 韓国プサン**」も釜山のイム先生と相談の結果、今年は難しいだろうという事になっているし、マランの小中学生を招いて実施してきた「**親子多文化交流 in 安中**」、今年も9月でと予定していたがこれも中止と決まった。

そのような動きが荒れ狂う中、2月14日から16日にかけて「**多文化交流 in ぐんま 2020 冬**」は実施された。実はこれも実施できるかどうか戸惑いもあった。スタートする一週間ほど前だったろうか、釜山からまとまってくる予定だった5名ほどの参加者が来られなくなったと連絡があり、さらに開催数日前にはまなばるの子ども達も参加出来ないことになった。ほぼ三ヶ月、スタッフの学生たちが毎週一回集まって企画を練り、チラシを作成し、参加者を募集してプログラムのほぼ出来上がった段階での大きな変動だった。けれども、私はその予期できなかった変動の中で、スタッフの学生たちの素晴らしいチームワークを見ることになった。5名の脱落で

一度は気落ちしたのではないと思うが、その日の内に、新たな参加者を募り、集まらなくても規模を縮小して続行と決めてからは迷いなく、ベストを尽くすことに専念。さらに、まなばるの子ども達の不参加の報には迷いは見られず、子ども達を意識して作成した企画が学生だけでの実施が出来るかどうかの検討に入り、冷静にプログラムを作り上げていた。

この試練が8名のスタッフを“ワンチーム”に育て上げてくれたのだろう。お互いの弱点をカバーし合いながら、見事に「**多文化交流 in ぐんま 2020 冬**」を完成させてくれた。私はこのチームを誇りに思う。



我が家でのスタッフ会議では、みんなミカンを頭にふざけているけれども、3か月後にはプロ集団になっていた！

新型コロナウイルス (COVID-19) は日々広がりを見せており、感染の心配のみならず、私たちの行動や経済面にまでその影響が出ています。皆様の健康や日々の生活が支えられていますように願っております。研究所やまなぼるの活動にも影響が出ていますが、明日を目指して頑張っています。

☆会費や一般のご寄付のお振り込みはカードもしくは郵便振替でお願いします。

年会費は 2,000 円です。年会費を振り込まれたか否かを個別にご連絡できないでおります。重複振込を避けるためにはカード振り込みをご利用下さいますと、年 1 回の自動引き落としが可能になります。

会費のお支払い・ご寄付は「クレジットカード」または「郵便振替」にて受け付けております。

【クレジットカード決済の手続きはコチラ】

【郵便振替はコチラ】



左記 QR コード、もしくは下記 URL (研究所のホームページ) からアクセスして頂き手続き・ご登録ください。アクセス先のページから「会費の支払い」と「ご寄付」に分かれておりますので、それぞれのページへ進んで頂き、手続きをお願い致します。

(<http://www8.wind.ne.jp/mthc/iims-cardannai>)

下記口座まで直接お振り込み下さい。

●加入者名：国際比較文化研究所
●口座番号：(普通) 00510-0-61974
※ゆうちょ銀行から振込可能な口座です。
※通信欄に「会費」または「寄付」とご記入ください。

会費・寄付<敬称略・順不同> (12/1~3/15)

会費並びにご寄付を有難うございます。皆様に支えられて国際比較文化研究所は今後とも「平和な地球社会の実現」に向けての諸活動に邁進して参ります。

9月号のニューズレターで、2019年6月20日に会費をお振り込み下さった方お二人のご報告が漏れておりました。大変申し訳ありませんでした。ここに改めてご報告させていただきます。もしも他に記載漏れや誤記などございましたら、お手数ですが研究所までご連絡ください。

入会：岸好孝、斎藤正幸、斎藤野乃、下川ほさな。(2020年に入ってからのご入会の方の会費は、20年度入会の扱いにさせていただきます。)

会費：6月入金分会費：新澤誠治、柴山亨。

12月~3月入金分会費：伊藤優子、水木健一、新澤誠治(20)、森泉英司(17~20)、植原 efa 映子(20)、巢山史枝、太田知子(18,19)、荒井美幸、高橋美一 (20)、岸好孝(20)、朝倉駿、斎藤正幸(20)、斎藤野乃、近藤佳代(20)、内田穂積(20)、下川ほさな(20)。

寄付：新澤誠治、森泉英司、永田強一、植原 efa 映子(×2)、鈴木諭香子(多文化交流)、大澤直子、岩井均、村井田和夫、イエスの友会、伊藤義彦・順子、萩原和子、太田知子、小坂景子(×2)、杉浦隆一、宇佐美若奈(毎月)、内野春香(毎月)、片岡謙(毎月)、藤本恵大(毎月)、内田穂積、山村由美、森泉孝行、遠間徹也、熊倉浩靖。

注1) 会費の記載中、()内は年度を表します。お名前のみの方は2019年度会費です。

注2) 時々会費かご寄付かの判断が出来ないご入金があります。年度会費未納の方の場合は会費として、既に19年度会費をいただいている方場合はご寄付として扱わせていただいておりますが、ご意志と異なる場合はご連絡下さいますようお願いいたします。

注3) ご寄付で(毎月)と有りますのは、カード振り込みで毎月ご寄付を頂戴していることを意味します。

編集後記：11月発行予定が遅れに遅れ、ついに1月号も発行できないままに3月になってしまいました。申し訳ありません。

振込用紙ご利用の場合のお願いがあります。会費か寄付かの区別を一言通信欄にご記入ください。(T)

会員ではない皆様にも、これまで何らかの形で IIMS に関りを持って下さった皆様にはニューズレターをお送りしています。送料の高騰でいつまで続けられるか分かりません。ご入会いただくか、送料をご寄付いただくと幸いです。(T)

発行 特定非営利活動法人国際比較文化研究所
事務所：〒379-0124 群馬県安中市鷲宮 3413-3
電話：027-382-5998 FAX：027-382-6393
ホームページ：<http://www8.wind.ne.jp/mthc>
メール：totatakao.iims@gmail.com
まなぼる：ホームページ：<http://manapal.jp>
電話：070-6659-5738 FAX：027-386-9000
メール：mail@manapal.jp